



令和3年度 宿利原小学校だより

# 宿っ子

7月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



## 体験活動で自己肯定感を育成

校長 有留 盛昭

梅雨明けから一週間ほどが過ぎますが、一時的な雨や雷など不安定な天気が続いています。夏と言えば夕立のイメージがありますが、近年地表温度の上昇と共に、夕方を待つことなく積乱雲が発達し、夕立ならぬゲリラ豪雨や局所的雷雨として日本各所に被害を及ぼしています。この温暖化に向かっている現状は、地球規模で協力して、私たち一人一人ができることを実践していかないといけないと感じています。

さて、昨年度の学校だより7月号では、1学期を振り返るアンケート結果から宿利原小学校の課題「自己肯定感の育成」について示しました。同じ質問についてと昨年度と今年の結果を比較してみます。

「自分には、自分なりのよいところがあると思いますか」 児童平均 3.6ポイント(R2年度)→4.0ポイント(R3年度)

「おさんは、自分のよいところを分かっていると思いますか」 保護者平均 3.2ポイント(R2年度)→4.3ポイント(R3年度)

自己肯定感は、学年が上がるほど肯定的な回答が低くなる(平成26年度国立青少年教育振興機構調査)傾向があるので昨年度と純粋な比較はできませんが、これまでの成果が表れていると考えていいのではないのでしょうか。これまでの取り組みとして、代表的なものは次の通りです。

- 自己評価、自己受容力の育成(自分が好き)のために  
自分の役割や責任を全うさせる。(宿題や課題をきちんと提出させる。係や委員会の仕事に責任をもたせる。食農**体験活動**で収穫、消費、まとめまで完結させる。等)
- 関係の中での自己育成(みんなに理解されている)のために  
他の人と協力したり、誰かに尽くしたりする(児童集会など児童会活動、ボランティア活動、縦割り清掃、全校児童による食農**体験活動**等)
- 自己主張・自己決定(伝える・表現する)のために  
自分の気持ちを伝え、表現する。(宿利原の樹の活用、**体験活動**などを振り返り発表する。等)

宿利原小学校の特色ある教育活動である「郷土を愛する体験活動」を充実させることは、児童の自己肯定感を育てるためには欠かせないものになっていることが御理解いただけると思います。全校児童が共にすることに意味があります。初めから終わりまで児童が中心になって活動することに意味があります。活動の中で、「自分のやりたいこと」と「我慢すること」を心の中で戦わせます。時には失敗という貴重な体験もできます。その時は、立ち直った過程が大切な財産に変わります。

自己肯定感の高さは、学力や規範意識や社会・地域を愛する意識などに良い影響を及ぼすことも、先述の調査には書かれています。自己肯定感を高めるための活動を今後も推進し、今後も「自分の特徴を知り、ありのままの自分が好きな児童」を育て続ける必要があります。学校だけでは難しい活動です。保護者の皆様や地域の皆様には、これからも御協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

